教えたくなる授業づくり 教師の意欲回復のために一

福岡教育大学

河野

はじめに

役割を担う教師自身の意欲が、喪失の危機に 学習内容や方法は存在しない。しかし、だか 自分を置くことができているだろうか。 きる」と、授業を心待ちにする思いのうちに、 ある。教室に向かう廊下で「今から授業がで 労感に襲われる。児童生徒の意欲を喚起する 常にうまくいくはずはなく、時として深い徒 も来る日も工夫を重ねる。もちろんそれらが 師は最大にして最善の成果を求めて、来る日 らといってあきらめるわけにはいかない。教 すべての児童生徒の意欲を等しく喚起する 教室へ向かう足取りは軽やかか

きるはずのことをしない」ままに教壇に立た ねばならないやるせなさにある、と私は思う。 は、「できない」ことにあるのではなく「で 教科指導において教師を襲う徒労感の源

> 削られる。教室にいるのは、昔の児童生徒で が次々に降ってくる。時間は有限。となれば、 ある。これまでの仕事は減らず、新しい仕事 もう少し時間があれば、 トレスの源があるように思う。 ぬこと」に押しつぶされていく。そこに、ス はないのに。「したいこと」が「せねばなら ら」という理由で、教材研究のための時間は しにされる。「昔教えたことのある教材だか いちど経験した仕事のための準備時間は後回 せることができるはずなのに、という思いで ことも授業に取り入れ、児童生徒の目を輝か あんなことやこんな

二 「もうひと手間」を授業づくりに

うか。 くりに時間を割いてみてはいただけないだろ しかし、そうであっても、今少し、授業づ

教材研究の面では、まず、 教材をゆっくり

> ことができる。 範読だけでも、じゅうぶん彼らを引きつける と丁寧に音読してみること。よく準備された

やはり手書きが良い。 かる。こうした作業は、手間暇はかかるが 点は調べる。紹介したい豆知識が次々に見つ 付いたことを次々に書きこんでいく。不明な がなければ部分的な視写でも良い。そして気 そして、教材を書き写してみること。

書き出してみて、そのつながりや構成を検討 いと願う。 かひと手間、 する時間を持つことも試してみてほしい。何 のひらめきに頼っていた発問や板書を、予め 今までは、その場の即興的なやりとりから 授業前に加えてみていただきた

教師の相互交流

ども。 制への郷愁を聞くとき、最も多いのが土曜の 目的、評価、 午後の時間を取り戻したい、という思いだ。 校を飛び出す、という姿が実情だろう。六日 がついたら帰宅の時刻、挨拶もそこそこに学 い。脇目もふらずその日の仕事に没頭し、気 教師相互のつながりの回復にも期待した 効率とは無縁の時間だったけれ

をつくりたい。私が参観させていただく研究 授業について、もっと同僚と語り合う時間

ている。 他の同僚が囲む雑談の輪が自然に形成される そ行きの「協議会」のあと、授業者の先生を ものもある。 引かされた人がしぶしぶ務めている、という 授業の中には、 いう同じ空間の中にいる同僚の間でも発生し 私だけではないか」という懸念は、職員室と からである。「こんなことで悩んでいるのは の意味で「丸投げ」は言語道断である)、よ や議論が成立していることがうかがわれ 授業に至るまでの過程で周囲の教員との協力 たとしても「して良かった」と思えるのは、 しかし、 明らかに「はずれ」のくじを きっかけはそうであっ (そ

四 願いと仮説を持って教室へ

室に向かうことである。

実際のところ、教師の多忙化、とくに時間で確かめたいことを「仮説」として携えて教わせていない。そのことを恥じつつ述べさせわせていない。そのことを恥じつつ述べさせの正と」を持つこと、 規範の多性化、 とくに時間実際のところ、 教師の多忙化、 とくに時間

の授業」の中に、「先生が最初から最後までいや願いのようなものであって良いと私は考いや願いのようなものであって良いと私は考れないし、そうならなくても、教師自身の思

きたい。 された授業」が必ず一定数含まれることが、このことの意味を語っている。彼らは、 技業にかける教師の思いを受けとめ、教師の 技業にかける教師の思いを受けとめ、教師の 技業にかける教師の思いを受けとめ、教師の 技業にかける教師の思いを受けとめ、教師の をい」と、児童生徒に伝えてほしいと思う。 ない」と、児童生徒に伝えてほしいと思う。 ない」と、児童生徒に伝えてほしいと思う。 も頑張ろう、などとおっしゃらないでいただ も頑張ろう、などとおっしゃらないでいただ も頑張ろう、などとおっしゃらないでいただ

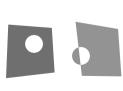
後者は、教育実習で私を鍛えてくださった指導教官の教えである。このことを確かめたう受けとめてくれるだろうか。そう思うだけう受けとめてくれるだろうか。そう思うだけが意味あるものとして自分を成長させてくれる、そう教えていただいた。研究授業の指導案にも、本時で検証したいこと、授業者が見な、そう教えていただいた。研究授業の指導をにも、本時で検証したいことがもっと端的に記述されるようになれば、と思う。

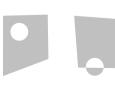
五 おわりに

てしまわないか懸念される。教えたいことが増えすぎて、詰め込みになっ「教え」に偏り、授業展開が強引にならないか、「むろん、このような構えには問題もある。

な意欲形成への期待を述べた。りする勇気が必要になるのだが、本稿ではそりする勇気が必要になるのだが、本稿ではそ変えて眺め、組み替えたり精選し(捨て)た変えて眺め、組み替えたり精選し(捨て)たくこで、教えたいことを「教え」の文脈で

に「不思議の負け」はないのだ。
授業準備にかけた熱意は必ず伝わる。授業





実践の重みを常に痛感している。学習の歴史的研究が主要課題。国語教育史における学習の歴史的研究が主要課題。国語教育史における